

## 鳥羽離宮跡第75次調査現地説明会資料

1982年6月5日

- 1 遺跡名 鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡
- 2 所在地 京都市伏見区竹田小屋ノ内町
- 3 調査面積 約2000m<sup>2</sup>
- 4 調査期間 1982年4月1日～6月15日
- 5 調査主体 財団法人京都市埋蔵文化財研究所
- 6 調査概要 第75次調査は、建設工事に先だって実施した発掘調査である。

調査区周辺では、以前より多くの発掘調査が実施され、平安時代末期の遺構が良好に残っていることが知られている。

検出した主な遺構には、第43・45・65次調査の推定金剛心院九躰阿弥陀堂・第39・74次調査の南北方向の道路跡、第2・14次調査の推定田中殿建物群などがある。

さらに周辺調査地の下層では古墳時代の竪穴住居址等の遺構も検出している。

既往の調査結果より、調査地は鳥羽離宮内田中殿地区に比定され、調査目標は鳥羽離宮内の地割と建物の地業状況及び古墳時代遺跡の広がり の究明においた。

- 7 遺構 調査区内で検出した平安末期の遺構には、建物跡9・瓦溜1などがある。

建物跡は調査区中央で集中して検出し、南北棟と考えられるS B 1・3・8と東西棟と考えられるS B 2・5がある。

建物の方位は、ほぼ同一（真北よりやや東にふれる。）であることから、同時期に建てられたものと考えられる。

建物の内S B 1・4・8・9は基壇が残り、S B 6には石組みの雨落溝がまわっている。S B 2・3・5・7は上面が削平され、礎石据付跡しか残っていない。またS B 4・6の周辺では瓦の出土量が多く、他の建物ではほとんど見られない。

建物の配置・地割は、調査区において検出した建物が、その一辺のみのものに多いので明確ではないが、雨落溝を整え、瓦葺きの S B 4・6 が主要な御堂で、S B 2・3・5 はそれに付属するものと考えられる。

建物の地業では、S B 1・8・9 が瓦と小礫を入れて地業しており、S B 4 は掘り込みの地業で、第 6 5 次調査で検出したものと同様な石積みを行っている。

8 遺物 出土遺物には、瓦類、土器類、金属器類がある。

遺物のほとんどは瓦類で土器類はわずかである。

瓦類には軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・鬼瓦などがある。

瓦類は、S B 4・6 の周辺と、瓦溜 S K 10 から大量に出土している。